

# 「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和3年1月22日(金) NO22 文責 木下 文秋

## 有事の今

有事とは「戦争や武力衝突、大規模な自然災害など非常の事態が生じること」を言います。コロナ禍の生活に振り回される今こそ世界全体が有事に見舞われている状況です。ある程度覚悟はしていましたが、7日から臨時休業となり、18日から受検を控えた3年生のみ三密対策をとりながらの通常授業となりました。何をやるにも制限を受けそれが、期間限定であれば我慢の仕様もありますが、ゴールが見えない状況で本当に困ったものです。しかし、歩みを止めるわけにはいきません。有事の今私たちが心がけることは何でしょうか。それは、無責任な言動は慎むことです。1月18日の宮日新聞に感染者が出た学校や施設に、誹謗中傷や個人の特定を求める電話が相次いでいると載っています。個人が特定されれば偏見や差別につながることは言うまでもありません。また、根拠のない噂話をしたり、耳にしたことを口にしたりすることも避けなければなりません。感染者は被害者であり悪者ではありません。悪いのはウイルスです。想像してみてください。あなたの家族が感染して、周りから差別を受けたらどんな思いがするのでしょうか。自分のこととして考えたら容易に想像がつくことです。周りの人をいたわり大切にす優しい心を持った人になってください。そして、もう一つ心がけたいことが「準備を進めておく」ことです。コロナが収束したとき「コロナがあったから」と言い訳にするのはあまりにも残念です。臨時休業中の課題が出ているはずですが、計画的に進めたでしょうか。余るほど時間はありました。今までどおりの日常が戻ってきたとき、きちんと生活できると約束してください。それができなければ、「ただただ本当にコロナに振り回された人」になってしまいます。コロナ禍ですが、これを機に、できるようになったこと、改善されたことなど自分にとってメリットがあるようにしたいものですが、それはあなた次第です。都城・三股地区の中学校では、現在5つの学校が修学旅行の中止を決めました。本校がギリギリの線でした。ことごとく学校行事が中止、延期、縮小されています。これ以上やられっぱなしは許せません。コロナが収束したら「倍返し」をしてやらなければなりません。そのために、今からしっかり準備を進め、これまでの分を取り戻す万全の体制を整えておくことが大切だと思います。